

森林やまがた

No.197

2022. 1



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

新年のご挨拶.....2
 令和3年度川村造林記念山形県林業賞
 會田悦陸氏 渡部岩次氏が受賞.....3
 やまがた森林ノミクス県民会議について.....4
 やまがた森林ノミクス
 県民ミーティング 初開催！.....4
 第35回山形県きのこ品評会開催.....5
 山形県再造林推進機構の取組みについて.....5
 やまがた緑環境税の評価・検証について.....6
 国有林から
 置賜森林管理署管内のクマ剥ぎ
 被害の現状について.....7
 みどりのページ
 天皇陛下ご下賜金による記念植樹と
 記念講演会を開催.....8
 県民の森・遊学の森・源流の森・眺海の森の相互
 交流等に関する覚書を締結しました.....8
 緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま...9
 高性能林業機械トライアル支援事業について...10

高性能林業機械の新鋭機体験研修会を開催.....11
 フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から
 地域連携課題プロジェクトと
 県外視察研修について.....12
 森の人
 森 陽祐さん 武田 和敏さん.....13
 普及情報
 林業技術者技術向上研修(森林利活用)の開催...14
 「主伐・再造林一貫作業に係る現地検討会」の開催...15
 本物の樹に触れよう！
 クリスマスツリープレゼント.....15
 治山や林道におけるドローンの利用について.....16
 最上地域における伐採・再造林の取組み
 伐採・造林事業者連携支援事業.....17
 子供たちの緑化推進 ～緑の一步を置賜から～...18
 市民の集う海岸林「万里の松原」とともに二十年
 万里の松原に親しむ会.....19
 地域住民の安全・安心を確保
 鶴岡市小国字西山地内
 西山緊急予防治山工事が完成.....20

(表紙写真：12月8日に開催されたやまがた美しい森林づくり推進大会 (第68回山形県林材業年次大会))



新年のご挨拶

農林水産部参事(兼)森林ノミクス推進課長

齋藤 潔

令和4年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から本県の森林・林業・木材産業の振興に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、本県において第5波に見舞われた8月から9月にかけて、連日2桁の感染者が確認されるなど、危機的な状況となりました。その後、感染状況は落ち着いているものの、第6波に備え、緊張感を持ちながら、引き続き感染防止対策とコロナ禍の影響を受けた県内経済の回復の両立に向けて、しっかりと取組みを進めてまいります。

一方、木材業界では、国内の木材需要がひっ迫し、木材価格が高騰する、いわゆる「ウッドショック」と呼ばれる状態が続いた年でもありました。県としましては、これを外国産の木材から県産木材へ切り替える絶好の機会と捉え、必要な施策を講じてまいります。

◆やまがた森林ノミクスの推進

皆さまと一丸となって取り組んでいる「やまがた森林ノミクス」は、地域の森林資源を活用することで林業の振興を図り、関連産業を含めた雇用を創出して、中山間地域の農山村を元気にする取組みであります。林業・木材産業の振興や森林資源の活用促進のための施策として、再造林の推進や県産木材の高付価値化、公共・民間施設の木造化・木質化、林工連携、しあわせウッド運動など、川上から川下までの総合的な施策を推進しております。

取組みの成果も着実に現れてきており、高性能林業機械の導入促進などにより、県産木材生産量は平成27年の36万m³から令和2年は55万m³に大きく増加しました。「伐ったら植える」を合言葉に、官民一体となって取り組んでいる再造林につきましても、平成27年度の33%から令和2年度は102%に伸び、

目標として掲げた「再造林率100%」を達成しました。

国際社会全体が目指すべきものとして、2015年9月の国連サミットにおいて採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の目標達成や森林吸収源対策の担い手としての森林・林業・木材産業への期待の高まりなど、森林を取り巻く環境は大きく変わってきています。さらに、人材育成の面でも、県立農林大学校林業経営学科の卒業生のうち、これまで31名が県内の林業事業体等に就職するなど、着実に取組みの成果が出ているところです。

近年、森林経営管理制度が導入され、森林環境譲与税の譲与が開始されたほか、こうした様々な情勢の変化に対応できるよう、引き続き、ICT等の先端技術を活用した効率的な森林整備や県産木材のサプライチェーンの構築、公共・民間施設の木造化等の取組みにより、森林資源の循環利用を進めるとともに、県民総参加の森づくり活動、体系的な森林環境学習等の取組についても強化してまいります。

また、高度な実践力を身に付けた人材を育成する東北農林専門職大学（仮称）の令和6年4月開学に向けた準備を進めるとともに、森林経営管理制度の円滑な運用のため、市町村を技術的にサポートする体制を強化するなど、関係団体と連携しながら様々な施策を展開してまいります。

中長期的な取組みについては、「第4次山形県総合発展計画（令和2年3月策定）」を踏まえ、「第4次農林水産業元気創造戦略（令和3年3月策定）」に即して策定した「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン（第3次山形県森林整備長期計画）」において、昨今の社会情勢の変化に対応した本県の森林・林業・木材産業の将来の目指すべき姿と方向性を具体的に示したところであり、やまがた森林ノミクスが目指す林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化に向け、これまでの取組みの成果を土台として、川上から川下までの総合的な施策を積極的に進めてまいりますので、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和3年度 川村造林記念山形県林業賞

會田悦陸氏 渡部岩次氏が受賞

◆はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年11月24日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、平山副知事から表彰状と記念の盾が受賞者に授与されました。

本年度は、山形市長から推薦のあった「會田悦陸氏」と、飯豊町長から推薦のあった「渡部岩次氏」が受賞されました。

◆川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、昭和6年12月から昭和7年6月まで、本県の第23代知事として在任した川村貞四郎氏から寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興・発展に顕著な功績のあった個人、団体を表彰するため、昭和39年に創設されました。

本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和40年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数

は、個人64名、49団体、合わせて113者となっています。

◆會田悦陸氏（山形市）

有限会社アイタ材木店の代表として、長年にわたり、地域材を使用した製材品等の出荷に取り組みとともに、平成21年から30年まで山形県木材産業協同組合の理事・副理事長を務め、県内木材業界の活性化と地域材の利用拡大に貢献されました。

また、先見性を持って県内の豊富な広葉樹資源に着目し、樹種の特長を活かした床材などの内装材や身近な生活用品等の製品の開発に取り組み、平成30年に山形県広葉樹利用拡大協議会を設立し、県産広葉樹の高付加価値化・利用拡大に取り組みました。

◆渡部岩次氏（飯豊町）

15歳から白炭生産に従事し、卓越した製炭技術を修得するとともに、木炭生産技術の伝承と後継者の育成に尽力されました。

また、平成2年に設立された飯豊

町木炭生産組合の立上げの中心メンバーであり、平成15年からは組合長となり、長年にわたりリーダーシップを発揮し、組合員の白炭生産技術の向上、炭窯の団地化による生産コストの低減と高品質化に取り組み、飯豊町の白炭の産地化に尽力するとともに、町外の炭焼き団体等の技術研修も受け入れるなど、県内の木炭生産の振興に寄与されました。



平山副知事を囲んでの記念撮影

◆おわりに

このたび受賞されました會田悦陸様、渡部岩次様に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県森林ノミクス推進課〕

街から里山・森林まで、県内の緑化活動・森づくりを一体的に推進します
林業従事者からボランティアまで、森づくりの担い手を育成・支援します
【やまがた森林ノミクスの加速化を推進】

公益財団法人 やまがた森林と緑の推進機構



緑の募金にご協力をお願いします! 理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL 023-688-6633(代) FAX 023-688-6634
総務部・緑化推進部 TEL 023-688-6633 林業部 TEL 023-666-6348

やまがた森林ノミクス県民会議について

◆はじめに

10月15日、17名の委員のご出席をいただき、「令和3年度やまがた森林ノミクス県民会議」をオンラインで開催しました。

この会議は、行政関係者（国、市町村）、学識経験者に加え、川上（森林・林業団体等）、川中（木材産業界・林業関係者）、川下（建築関係、観光関係、環境教育等）に関わる事業者や公募委員など様々な分野の委員によって構成されています。

◆会議内容

会議では、吉村知事の挨拶に続き、県から「やまがた森林ノミクス」の取組状況、やまがた緑環境税の評価・検証についての報告を行いました。

委員からは、「素材生産量、再造林率の向上については順調に推移しており、特に再造林率は隣県などをみても山形県は誇らしい数値である」、「県産木材の利用促進、公共施設の木造化についてはまさに森林ノミクスを身近に感じられるものである」など、これまでの取組に対する一定の評価とともに、「広葉樹の利用拡大

について、輸入材から転換するには

製材、乾燥の工程の問題を克服しないとなかなか進まない」などの課題や、「森林の整備は公益的機能の発揮災害等への備えなど県民生活に直結することから、その重要性の認識の共有がさらに必要」、「やまがた緑環境税と森林環境譲与税を使った取組について、違いを明確にするとともに森林に対する意識の醸成につながるよう県民にわかりやすい方法で実施していくことが必要」などの今後の取組に対する意見をいただきました。また、「ウッドショックのなか、製材品の生産体制の強化や人材確保など、業界をあげてより一層取組んでいく」など、事業者側からも意欲的な発言がなされました。

◆おわりに

本会議でいただいた多角的な視点からのご意見等を今後の施策にいかしていくとともに、「やまがた森林ノミクス」のさらなる加速化に向けて、国・県・市町村はもとより、事業者や県民が一体となったオールやまがたで取組を進めて参ります。

〔県森林ノミクス推進課〕

やまがた森林ノミクス県民ミーティング 初開催！

◆はじめに

11月26日、やまぎん県民ホールをメイン会場として「森林の価値を考える 未来につながる魅力的な森林へ」をテーマに、「令和3年度やまがた森林ノミクス県民ミーティング」を2部構成で開催しました。

◆第1部 セミナー

「2021ミス日本みどりの女神」の小林優希さんが司会を務め、吉村知事のオープニングメッセージでスタートしました。東北芸術工科大学教授の馬場正尊氏の「森を感じながら暮らすさまざまな工夫とデザイン」と題した講演では、日常と非日常が混ざり合う森林空間を活用した静岡県や千葉県、宿泊施設の事例、森林資源を地産地消した佐賀県庁の地下ラウンジの木質化等の紹介の後、山形ならではの森を感じる生活に向けての提案をいただきました。続いてレストラン「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフの奥田政行氏によるトークでは、料理に木製品を使用することへの意義、木製品を使用したほうがよい料理等について紹介していただきました。



◆第2部 フリートーク

第2部では「森林の魅力を探る」をテーマに、県内で森林の魅力を活かした事業に取組んでいる若手の皆様をゲストに迎えオンラインフリートークを行い、森林と関わるきっかけ、森林の魅力等について活発な意見が交わされました。

・ゲストⅡ 佐藤悠美氏（食関係・山菜料理出羽屋）、丹健一郎氏（観光関係・金山町役場）、須藤修氏（デザイン関係・（合）根を這う）
・モデレーターⅡ 県森林ノミクス推進課 佐藤日和主任技師

◆まとめ

このミーティングが地域資源を活用した森林サービス産業など新たなビジネスモデルの創出・拡大につながることを期待しています。

〔県森林ノミクス推進課〕

県産きのこのさらなる品質向上を目指して逸品が集結！ 第35回山形県きのこの品評会開催

○きのこ生産者の逸品が集結

令和3年11月30日（火）、新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」を会場に第35回山形県きのこ品評会が開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上や生産意欲の高揚を図ることを目的として山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。

今年も県内各地から、生産者が丹精込めて栽培した生しいたけ、なめこ、えのきたけ、まいたけ、ぶなしめじの計53点が出品されました。



きのこの形状、色沢、均一性などを審査

○山形県知事賞は太田博さんに

森林研究研修センター所長堀米英明氏を審査委員長とする13名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われ、太田博氏（最上町）の生しいたけ（菌床）が最優秀賞の山形県知事賞を受賞しました。

○ヤマザワ新庄店で即売会を開催

12月1日（水）に品評会に出品されたきのこの即売会がヤマザワ新庄店で行われ、悪天候にも関わらず多くの方にお買い求めいただき大好評でした。

今年、新型コロナウイルス感染症や原油高騰の影響により、生産現場は例年になく厳しい状況でしたが、多数の生産者から出品して頂き、栽培技術の高さを披露していただきました。

県では、今後も県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

～山形県再造林推進機構の取組みについて～

山形県再造林推進機構では、伐採後の再造林の確実な実行を促進するため、県産木材の出荷販売、仕入販売、購入、自家消費及び立木販売を取扱う事業所等から、1㎡当たり20円の協力金を募り、それを原資とする基金から、申請に基づき再造林経費10%相当分を助成しております。

令和2年度は、約1千万円の多大な金額を寄せていただきました。また、再造林に対する助成金は約73ha（58箇所）を対象に約730万円を交付しました。

御協力いただいた各森林組合・事業体に対し深甚なる感謝を申し上げます。〔山形県再造林推進機構〕

再造林基金造成に御協力をいただいた協力事業所のみなさま

【協力協定森林組合】

山形県森林組合連合会、山形地方森林組合、天童市森林組合、西村山地方森林組合、北村山森林組合、東根市森林組合、最上広域森林組合、金山町森林組合、米沢地方森林組合、西置賜ふるさと森林組合、小国町森林組合、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、北庄内森林組合 《以上14組合、敬称略》

【協力協定事業所】

(有)青野製材所、上妻林業、(株)旭林業、(株)阿部製材所、(株)阿部林業、(有)荒井材木店、荒生木材(有)、安楽城林産(株)、(株)荒正、五十嵐幸一、(株)石川製材所、(合同)イズミ、(株)岩浪木材センター、(株)ウェルランド、(株)ECOグリーン米沢、NKCながいグリーンパワー(株)、(有)遠田林産、おきたま木材乾燥センター(株)、(株)沖田木材産業、金上林業、岸三郎兵衛、木村製材所、(株)キムラ林業、協和木材(株)新庄工場、グリーン・サーマル(株) [DSグリーン発電米沢(合同)分]、(有)小関興業、(株)佐藤工務、佐藤製材所、(株)佐藤林業、(有)佐藤林産、三英興業(株)、(株)下山製材、(株)シュナイト、(株)庄司製材所、(有)庄司林業、庄内ウッド、(有)新庄林業、(株)大和、(有)高菊林業、(合同)高清組、(有)高橋林業、(有)たくみまきの、東北ウッドカッター(株)、中津川バイオマス(株)、西垣林業(株)酒田事業所、日本製紙木材(株)酒田営業所、(有)古澤製材所、(株)北越マテリアル新庄工場、(株)北越マテリアル米沢工場、(株)北桜林業、前田製材所、マルカ林業(株)、(株)武藤林業、(株)もがみ木質エネルギー、山一木材、(株)山形城南木材市場、(協)やまがたの木乾燥センター、(株)ヤマムラ、山元林業協同組合、(有)山六製材、(株)結城林業、(有)渡部製材所、(株)渡会電気土木 《以上64事業所、五十音順・敬称略》

やまがた緑環境税の評価・検証について

◆はじめに

やまがた緑環境税は、森林の公益的機能の維持増進及び持続的な発揮に関する施策を行うため、県民の皆様から広くご負担いただいているものです。

税事業の効果を検証し、社会情勢の変化等への対応を検討するため、5年を中途に点検、見直しを行うこととされており、前回の見直しから5年経過した今年度、3回目の見直しを行いましたので、その内容についてお知らせします。

◆見直しの経過

税事業に対しては、第3者機関である「やまがた緑環境税評価・検証委員会」を設置し、毎年、税の使途や施策効果の検証を行なっております。今回の見直しに際し、委員会の意見を聞きながら、プロジェクトチームやワーキングチームで検討を重ね、協議を進めました。

また、評価・検証に資するため、県民や法人に対するアンケート調査を実施しました。

◆近年の林業を取り巻く情勢の変化

この5年間、SDGsの社会への浸

透や「ゼロカーボンやまがた2050」の宣言など、環境問題への関心がさらに高まってきました。

また、国の施策では、平成31年4月に「森林経営管理法」が施行され、森林経営管理制度がスタートし、令和元年度より森林環境譲与税がすべての県、市町村に交付されています。

◆アンケートの結果

県政アンケートの結果、「やまがた緑環境税」の認知度は32.5%で、前回の調査より低下し、特に若年層での認知度が低くなっています。

一方、個人や法人アンケートでは、税の継続については約8割が賛成、税額については5割以上が現在の税額に賛成でした。

◆やまがた緑環境税と森林環境譲与税の使途の整理

森林環境譲与税は、森林の整備に関する施策や人材の育成・確保、木材利用の促進、森林の機能に関する普及啓発など幅広い使途があり、やまがた緑環境税の使途と重複することから、使途の整理が必要とされました。

そのため、県内市町村に対する聞

き取り調査を行った結果、市町村では森林環境譲与税を財源として、主に森林経営管理制度に基づく森林の現況調査や意向調査等を実施しており、本格的な森林整備に着手するには時間を要することがわかりました。

このため、これまでの事業スキームは継続し、今後、市町村の森林経営管理制度の進捗状況を確認しながら必要に応じ事業を見直す事としました。

◆見直しの内容

今回は、税額や10カ年計画など基本的な制度は継続し、社会情勢の変化に伴う事業内容の見直しのみとしました。主な見直しの内容については、次のとおりです。

- ・市町村が「森林経営管理制度」に基づく経営管理権を設定する森林については、当事業の対象から除外
- ・二ホンジカの生息域拡大に応じた管理体制の強化
- ・貴重な森林資源の更新手法の検討
- ・各県民の森をやまがた木育拠点と位置付け機能を拡充
- ・やまがた森の感謝祭を従来の式典型から本格的な植樹を中心とする体験型に転換
- ・ターゲットを明確にした効果的な普及・啓発による認知度の向上

◆おわりに

やまがた緑環境税は、平成19年4月に創設され、税を活用した事業により、これまで16,280haの荒廃森林が整備され、毎年65,000人前後の方が森づくり活動などに参加しております。

引き続き森林の公益的機能の維持増進及び持続的な発揮に関する施策を実施するとともに、やまがた緑環境税の認知度向上にも努めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

〔県みどり自然課〕

やまがた緑環境税のしくみ

県内に住む個人、県内に事務所等を有する法人を対象に、県民税の均等割に上乗せして課税しています。



個人・・・1,000円
 法人・・・県民税均等割の10%相当額
 (資本金等の額に応じて)

資本金等の額	1千万円以下	1千万円超1億円以下	1億円超10億円以下	10億円超50億円以下	50億円超
税額/年	2,000円	5,000円	13,000円	54,000円	80,000円



国有林から 置賜森林管理署管内の クマ剥ぎ被害の現状について

●はじめに

日頃から、置賜地域の国有林野事業の管理運営に関しまして、ご理解ご協力を賜っておりますことに、御礼を申し上げます。

置賜森林管理署は、小国町に所在し、置賜地区関係3市5町に跨がる国有林の管理面積約7万7千ヘクタールを管轄しており、そのうち針葉樹は約10%を占めております。

●クマ剥ぎとは？

「クマ剥ぎ」とは、春から初秋にかけて、野生のクマが針葉樹（特にスギ）の根本から約2m程度の高さまで、ほぼ全周の樹皮を剥ぎ、その中にある甘皮を主食としてではなく、デザート感覚で舐め、最終的に樹木を枯れさせてしまうものです。



クマ剥ぎされた樹木

ほぼ全周の樹皮を剥がされた樹木

は、水分を末端まで吸い上げることが出来なくなり、将来的には立ち枯れしてしまいます。残念なのは、先代の先輩達が、植付けし、猛暑の中心を刈り、蔓を切り、汗水流して、一本一本丁寧に育てた伐採間近の樹木をいとも簡単にクマが樹皮を剥いで枯らし、材質の低下を招いてしまうことです。

また、一度剥いだ樹木に何回も剥ぎにやってきて、舐め回すという徹底ぶりです。ただ、一説によると、樹皮を剥ぐクマと剥がないクマがあり、剥ぐクマは、親熊が子熊に伝授するといわれています。

被害地も、年々増えており、過去には山形県内には被害がないと言われていましたが、森林を見渡す限り、被害は増えています。特にスギの針葉樹林に一本でも赤く枯れているスギの木を見つけたら、「クマ剥ぎ」の疑いが濃厚です。また、その周辺の針葉樹は、葉が青々としていても、部分的に、樹皮が剥がされ被害にあっている可能性が非常に高いです。部分的に樹皮が剥がされ、枯れている

なくても、一番価値のある一番玉の商品価値は下がります。そのまま放置していると、おそらく「クマ剥ぎ」を何度もやられ、将来的には立枯れとなってしまうます。また、国有林だけでなく、民有林も含め森林所有者の方の、精神的ダメージも大きく、防護策も含めて、「クマ剥ぎ」対策は喫緊の課題でもあります。



リンロンテープ巻き

●じゃ、被害を食い止めるには？

「絶対に被害にあわないのはこれ！」という方法は、残念ながら現状ではありません。置賜森林管理署では、一番効果的で効率的な防護方法を試行錯誤しながら実施しており、その中で、「樹木の一番玉をテープでぐるぐる巻きにする防護策が一番効果的では？」という試験を継続して検証しております。

現状では、カプサイシン（唐辛子成分）を混入したテープや生分解性のテープなどを試行し、監視カメラ



現地検討会

を設置し有効性を検証しております。また、小国町や地元住民の方と現地検討会などを実施し、防護策等の方法など技術支援も実施しております。

クマは、行政区界に関係なく、「クマ剥ぎ」をしますので、民国連携が非常に重要です。また、全ての樹木に防護策の手立ては不可能ですので、被害が無い、守らなければならない森林への対策など「人間の知恵と技術」の力で「クマ剥ぎ」の被害を乗り切ることが出来ると考えます。

今後、野生動物との共存方法や森林の施業方法など、課題は山積しておりますが、置賜森林管理署としましても、「クマ剥ぎ対策」を最重要課題と位置づけし、後世に素晴らしい森林を引き継ぐために、全力で取り組んで参りますので、ご協力をよろしくお願い致します。

〔置賜森林管理署〕



みどりのページ

天皇陛下ご下賜金による
記念植樹と記念講演会を
開催しました

天皇陛下は、毎年、緑の募金に対するご下賜金を公益社団法人国土緑化推進機構に贈られており、このご下賜金は全国の緑化推進協議会に配分され、各都道府県が持ち回りで記念植樹等を行っています。

令和3年度は公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構（山形県緑化推進委員会）が東北・北海道地区緑化推進協議会の当番県として記念植樹を行うことになり、山形県立農林大学校に林業経営学科が創設されてから5年が経過することから、5周年記念事業として、農林大学校に隣接する県畜産研究所ふれあい広場に記念植樹を行いました。樹種は、平成14年全国植樹祭での天皇陛下のお手植え樹種であり、山形県が日本一の面積を誇るブナを選定しました。

植樹式には、県の農林水産部長と環境エネルギー部長を来賓としてお招きし、当機構理事長である今井敏東北・北海道地区緑化推進協議会会長の主催者挨拶、神山専門職大学整備推進監の来賓挨拶に続いて、林業経営学科の学生の補助を受けながら、

代表者6名による記念植樹が行われました。



植樹者による記念撮影

記念植樹に続いて、農林大学校体育館において記念講演会を開催し、NPO法人共存の森ネットワーク理事長で農学博士の澁澤寿一氏から「農林業で地域の活性化」と題して講演していただきました。参加した約150名の学生はみな熱心に先生の講義に耳を傾けており、とても有意義な講演会となりました。

県民の森・遊学の森・源流の森・
眺海の森の相互交流等に関する
覚書を締結しました

県内には4つの県民の森（県民の森、遊学の森、源流の森、眺海の森）

があり、各指定管理者が施設の管理・運営を行い、利用拡大に努めているところです。また、各森の案内人の会は県民の方々への森林環境学習等の活動を支援しています。

そのような中で、各県民の森の館長等及び森の案内人の会が、今後、より一層お互いに連携し、積極的に相互交流や情報交換を行うため、連携に関する「覚書」を取り交わしました。

締結式は11月23日に山形ビッグウイングで行われ、各団体の代表者らが覚書に署名しました。



覚書を手に関係者で記念撮影

この度の覚書の締結により、相互交流や情報交換が行われ、利用拡大やサービスの向上などが期待されます。

東北・北海道地区の緑化
功労者表彰 舟山功氏

東北・北海道地区緑化推進協議会が表彰する令和3年度緑化功労者に、本県からは舟山功氏（小国町）が選ばれました。

舟山氏は、源流の森インタープリター（森の案内人）として積極的に活動し、平成16年から令和2年まで源流の森インタープリテーション協会の会長を務め、協会の円滑な運営に尽力しながら、源流の森を訪れた方々を対象に森林や自然の魅力を広く発信してこられました。

また、森林環境教育活動の一環として、NPO法人ここ掘れ和ん話ん探検隊が主催する緑化イベントのほか、地域の学校、PTA、学年行事などを中心に、幅広い世代を対象に森林環境教育を実践しており、その功績が高く評価されました。

この度の受賞を機に、舟山氏の今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

加藤 善次郎氏が 緑の少年団育成功労賞を受賞

公益社団法人国土緑化推進機構が表彰する令和3年度緑の少年団育成功労賞に、加藤善次郎氏（南陽市）が選ばれました。

加藤氏は、吉野緑の少年団や地元の小中学生が行う自然環境学習への協力・支援を長年にわたって行っており、緑化の推進等にも尽力されてきました。

令和元年度までは、荻小学校の学林などをフィールドにした指導を行っていたのですが、本人のご意向により令和2年度にご勇退されました。加藤氏のこれまでの功績に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

「森の教室どんぐりぐんと 森の仲間たち」をオンライン で開催

公益社団法人国土緑化推進機構と各都道府県緑化推進委員会が主催する「森の教室」は、幼稚園や保育園を対象に、森林の役割や大切さを伝える巡回教室です。株式会社ファミリーマートの店頭募金「夢の掛け橋募金」により行われています。

今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、「どんぐりぐんの森」と幼稚園・保育園をZOOMで繋ぎオンラインでの開催となりました。



クイズに答える園児たち

山形県内では、3つの園で、149名の園児が参加しました。

- ① 10月12日（火）
ゆりかご保育園（山辺町）
- ② 10月13日（水）
大ケヤキ中央保育園（東根市）
- ③ 10月15日（金）
東根市立東根市児童センター（東根市）

園児たちは、森づくり名人「どんぐりくん」と森づくりAIロボット

「ふあみたん」、進行役の「森のお姉さん」と一緒に、キャラクターショーや、動物の足跡クイズ、ダンスを楽しみました。動物の足跡クイズでは、多くの園児が挙手し、森に生息する動物を当てていました。また、ダンス終了後には、森の教室で学んだご褒美として、木製の魚釣りセットと塗り絵ハガキ、森の教室のダンスDVD、CDを園児たちにプレゼントしました。イベントの最後には、園のみんなで育ててもらったために、どんぐり（ミズナラ）の稚樹の植え替えを行いました。



どんぐりの植え替え

（公財）やまがた森林と緑の推進機構

「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま（R3.10.1～11.30）

（やまがた森林と緑の推進機構取扱い分）

(株)安藤組、飯鉢工業(株)、衣袋建設(株)、(株)ウンノハウス、エムテックスマツムラ(株)、大ケヤキ中央保育園(株)、柿崎建設工業、(株)克技術設計、北日本特殊イサベラ建設(株)、(株)キヨスミ産研、クリーンサービス(株)、(株)幸輪、小白川建設(株)、(有)後藤クリーン商会、(株)斎藤建設、(株)蔵王ミート、(株)三洋、(有)三立、JA庄内たがわ、庄内環境緑化事業(協組)、(株)荘内銀行、城北電気工事(株)、森林整備センター 山形水源林整備事務所、すずき看板、大金電子工業(株)、大伸建設(株)、(株)高橋組、高橋土建(株)、中央公害清掃(株)、天童ロータリークラブ、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)永田プロダクツ、(株)ナルセ、日本地下水開発(株)、(株)パスコ山形支店、(株)マイスター、(株)マツダ建設、三ツ和工業(株)山形工場、(株)メコム、(株)山形銀行 南山形支店、山形商工会議所、山形信用金庫、(協組)山形木造住宅プレカットシステム、(株)山口工務店、(株)ヤマザワ、(株)山本製作所東根事業所、米沢中央ライオンズクラブ、米沢ライオンズクラブ、(株)ライナー、ロータス山形(株)、(株)渡部砂利工業所 (敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

高性能林業機械トライアル支援事業について

山形県林業労働力確保支援センター

◆はじめに

山形県林業労働力確保支援センター（以下、「労働センター」という。）では、県と連携して、新たな森林管理システムの構築に向けて、効率のかつ低コストな施業方法の確立と意欲と能力のある林業経営者の育成を図るため、県内の林業事業者（以下、「事業者」という。）が、高額な機械を購入前に試行的に使ってみたいといった希望に対応して、ハーベスタやプロセッサ、フォワーダといった高性能林業機械を借上げた場合、レンタル経費の補助を行う「高性能林業機械トライアル支援事業」（以下、「トライアル支援事業」という。）を行っています。

◆事業概要

トライアル支援事業の概要は、前述のハーベスタ等の高性能林業機械について、1事業者あたり4台（対象林地毎に2台）まで、期間は1台当たり3カ月程度で、レンタル経費の2分の1相当額を補助するものです。

◆利用状況

令和元年度から事業を実施しており、利用状況は左記のとおりです。

令和元年度	14事業者	26台
（機種別内訳）		
・フェラーバンチャ		6台
・ハーベスタ		6台
・プロセッサ		3台
・フォワーダ		11台
令和2年度	19事業者	36台
（機種別内訳）		
・フェラーバンチャ		8台
・ハーベスタ		7台
・プロセッサ		5台
・フォワーダ		16台
令和3年度	14事業者	31台
（機種別内訳）		
・フェラーバンチャ		7台
・ハーベスタ		5台
・プロセッサ		4台
・フォワーダ		15台

傾向としては、フォワーダの申請が毎年一番多くなっており、次のフェラーバンチャでは、ザウルスロボの申請が多くなっております。

本年度は、新しくハーベスタで、オーストリア製のヘッドでスギ曲り材のほか広葉樹材などにも対応できる高性能な機能を持つ「WOODY」をトライアルした事業者があります。



ハーベスタ・Woodyでの作業状況

◆事業者利用者調査から

本年度、これまでトライアル支援事業を利用した事業者から、利用状況等についての調査を行いました。

その中で、事業の効果についての回答を紹介します。

「購入前に高性能林業機械を現場で試用し、生産性や費用対効果を確認できる」

「2班体制で、片方はチェーンソーで造材作業を行ったが、プロセッサ造材による具体的なシステムの作り

方を明確化でき、機械導入の目安となった」

「レンタル料金が高額で利用できなかったが、この事業で機械を体験することができ、購入を検討」

「作業システム構築のための試験導入ができ、安心して機械の使用方法の様々なパターンを試すことができる」

「オペレーター育成に効果がある」といった、回答が寄せられました。

これらの回答から、機械の性能を購入前に確認できることによって、新たな作業システムの構築や、操作方法の事前習得等につながり、スムーズな高性能林業機械の購入に寄与していることがうかがえます。

◆おわりに

今後、新たな機能を装備した最新の機械をレンタルして、その後の購入につながることで、事業者の生産性の向上・労働環境の改善により、意欲と能力のある林業経営者の増加につながるかと考えております。

労働センターの取り組みや各事業に関する問合せについては、ホームページをご覧ください。

<http://www.ymidori.or.jp/roukakaku/>
 〔公財〕やまがた森林と緑の推進機構
 県林業労働力確保支援センター

高性能林業機械の新鋭機体験研修会を開催

山形県内でも高性能林業機械の導入が年々増加しています。高性能林業機械の導入は、労働生産性の向上、生産コストの低減、労働環境の改善に大きく貢献しています。

令和元年度における県内での高性能林業機械の保有台数は191台であり、最も多く保有されているのはフォワーダ（積載式集材車両）、次に多いのがハーベスタ（伐倒造材機）となっています。

当協会では、11月2日に森林研究研修センター及び庄内総合支庁森林整備課との共催で、鶴岡市植代地区において、ハーベスタは温海町森林組合、フォワーダは金山町森林組合からの協力を得ながら、新鋭機を体験する研修会を開催しました。

研修会は、午前の部と午後の部の2回開催し、林業事業者や行政関係者等45名の参加がありました。近年は木材需要が増大するとともに、さらに広葉樹の活用が求められております。研修会で使用したハーベスタは、針葉樹はもとより広葉樹や曲がり材にも対応できる機種であり、参

加者は新鋭機の高い性能に感心しながら、今後の可能性に大きな期待を寄せていました。今回は研修会で使用した2機種について紹介します。

◆多機能型ハーベスタ

林業機械化の先進国オーストリアのコンラート社製ハーベスタヘッド「ウッドデイ」です。

従来型のハーベスタはヨーロッパの平坦な地形での伐倒から造材までの作業を前提に開発・設計されてきましたが、「ウッドデイ」は日本と同様に急峻な山岳地帯の多いオーストリアで独自の進化を遂げたハーベスタヘッドです。特殊な機能が多く盛り込まれ、従来のハーベスタ作業では困難とされてきた作業への対応もスムーズにこなし効率化を実現しています。

他のハーベスタにはない「ウッドデイ」の特徴は、送材・造材機能にあります。独特なくびれ形状をしたフイードローラーを左右別々に動かすことにより、曲がり材の多い広葉樹や表面に凹凸の多い材の送材を可能にしています。造材についても、メ

インソーの反対側にもう一つソーが搭載されており、持ち替えをせずに小径部分の切り落としや二股の処理等を行うなど、作業の効率化の妨げとなる工程をスムーズにこなします。また、3本のフォーク形状のグラップルは両刃となっており、枝打ちナイフとしても働き、フイードローラーと同様に別働シリンダーにより、あらゆる形状変化に対応しています。さらに、フイードローラーユニットのチルドアップにより、グラップル構造が独立して使用でき、はい積みから積み込みまで一連の作業を一台でこなすことができます。



多機能型ハーベスタ

◆次世代型フォワーダ

フィンランドのヤクラック社のフォワーダにエストニアのパルムス社のグラップルを装備した次世代型フォワーダです。幅の広いゴム製クローラーを装備しているため、土壌を損傷することなく林地内を動き回ることができません。また、車体が軽量であり、軟弱な地盤や雪上でも自由に移動できます。さらに、従来のフォワーダは、走行作業と積込作業を別の運転台で行うため、頻繁に乗降が必要ですが、このフォワーダは運転席が回転式であり、運転席で容易に走行や積み込みができるようになっています。



次世代型フォワーダ

〔山形県森林協会〕

地域連携課題プロジェクトと県外視察研修について

◇冬を迎え、1年生15名は座学や実習、資格取得に励み、2年生14名全員、就職先が決定し、卒業論文の完成に向けて一生懸命頑張っています。今回は1年生と2年生の学習の様子をお伝えします。

○地域連携課題プロジェクトの実施について【1学年】

農林大では、学科ごとに地域の方々と協働し、課題解決に向けた様々な取り組みを実施しています。林業経営学科では、県内唯一の森林・林業を専門に学ぶ学科を有する村山産業高校の農業環境科と連携し、森林整備の手法を学びながら、林業の魅力をもめざす「若手林業者育成プロジェクト」に取り組みました。

全部で4回開催し、第1回は7月14日に1年生を対象に村山産業高校内にて、森林・林業についての講義とトウルールパルス等による測樹の方法の実習を行いました。

第2回は10月7日に、村山市内のやまがた森林と緑の推進機構有林にて、2年生を対象にスギ人工林の現況把握のための標準地調査の実習を

行いました。

第3回は、10月22日に、第2回目の標準地調査結果の説明、間伐必要木の選木の実習を行いました。あわせて、村山産業高校の卒業生2名による伐倒のデモンストレーションも行いました。



農林大生による高校生への操作指導

第4回は、11月17日及び18日に、村山産業高等学校の演習林にて、農業環境科の全学年を対象に、プロセッサとフォワーダを使用し、高性能林業機械の説明と、プロセッサによる造材からフォワーダへの積み込みまでの一連のデモンストレーションを

行いました。特に2年生からは操作体験も行ってもらいました。なお、林業実践校サポート支援事業として、新庄神室産業高等学校食料生産科1、2年生にも林業機械について、学習してもらいました。

これらの実習により、高校生の林業への興味が高まるとともに、全ての回で農林大生が講師役として講義や機械操作を指導したことから、学生のスキルアップにもつながりました。

○県外視察研修について【2学年】

11月12日及び13日に岩手県のノースジャパン素材流通協同組合、(以下「NJ素流協」)、(株)古里木材物流、釜石地方森林組合において視察研修を行ったので紹介します。

まずは「丸太の流通の採材方法」及び「広葉樹材の需要の現状について」と題してNJ素流協理事長の鈴木信哉氏から講義をいただきました。NJ素流協は、東北各県の組合員約200社からなる素材生産業者に代わって製材側との価格交渉、出荷の調整、製材側からのクレーム対応を行っているとのことでした。また、最近の原木流通の特徴としては、銘木等でない限り直送の方が山元に利益還元されることを学習しました。

続いて、(株)古里木材物流 代表取

締役 島山正氏から中間土場と所有トラックの種類及び特徴について説明をいただきました。10tタイプの他に6tの4WDトラック、10t2面のフルトレーラーなど14台を所有し、効率よく運用していました。また、悪天候でも外に出て作業する必要がないよう、助手席でVRゴーグルを使って、ローダークレーンを操作できるトラックを導入し、労働環境の改善につなげていました。



VRゴーグルによるローダークレーン操作

釜石地方森林組合参事の高橋幸男氏からは、震災で多くの犠牲者を出しながら、今では全国でもモデル的な取り組みを行う森林組合になった復興の軌跡について講義を受け、逆境に負けないことの大切さを学びました。〔山形県立農林大学校〕

森の人紹介

山形地方森林組合

山形県青年林業士

もり 陽祐さん（上山市）



令和3年度「青年林業士」に認定された、森陽祐さんを紹介し

す。

森さんは、元々登山やキノコ採りが好きで、山林を歩き回る職業に憧れ、林業の業界で求人があれば挑戦したいと考えていたそうです。新卒で県内企業に就職したものの、地元で森林組合の求人を発見し、応募し採用されたとのことです。

▼森という苗字の由来について

元は『金森』という姓で、岐阜県から来たと聞いています。「森林組合の森さん、名前を憶えやすいね」と言ってもらい、うれしいと話していました。

▼「青年林業士」として

林業はどうしても、針葉樹の造林・素材生産といったジャンルが目ざれがちです。森林組合では、「特殊伐

採」の仕事にも取り組んでおり、「広葉樹」の利用もあり、奥が深いと感じています。

地元の方には、広葉樹の素材生産、山菜やキノコの生産を頑張っている方も多く、その方々との交流を通して知識を習得し、情報を必要としている方に伝えられる存在になりたいと考えています。

▼森林施業プランナーを目指して
令和2年度から「境界明確化」の作業に従事し、森林経営計画の作成の準備を行いました。

実家のある上山市菖蒲地区は恵まれた環境でしたが、境界の確定自体は困難を極め、「所有者自身が境界を把握していない」「地形と公図が一致せず、公図にも森林簿にも載っていない所有者が沢山いる」という状況で、多くの時間を費やし、苦労しました。

仕事を通して、「昔の土地の話や狩猟、山林・樹木の活用など、様々な話を聞くことができ、地元への理解が深まった。山や林業にまつわる知識を持つ方々がまだ地元に残っていることに感銘を受けた」と、目を輝かせながら話してくれました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

納得できる仕事で地域貢献

武田和敏さん



令和3年度に指導林業士に認定された、武田和敏さんを紹介し

す。

武田さんは高島町出身で、地元の高校を卒業した後、高島町森林組合（現米沢地方森林組合）に就職し、平成15年まで職員として働いていました。その後、「自分がやりたい、納得できる仕事があった」という思いから有機農業を推進する団体に転職しましたが、平成24年に林業事業体を立ち上げ、個人で活動しています。

現在は、置賜地域を中心に県内各地で、主に伐採作業を請け負っています。仕事の依頼はこれまで培った人脈から入ることが多く、大きな事業体ではできないような小規模な伐採や刈払いを中心に行っています。

大型の機械は所有しておらず、従業員もいないため、一人でできない仕事については、「仲間」のネットワーク

クを駆使し、協同で対応しています。休みがなくなるくらい仕事が入ること、武田さんの仕事の的確さ、信頼の厚さ、そして人柄の良さがうかがえます。

林業に対しては、森林所有者の所得になるもの、土地にあったものを進めたいということです。具体的には、スギは花粉症やクマ剥ぎ、そして保育費用の課題があるため、成長が良く、長伐期施業が可能で、取引価格も高いカラマツを普及したいとのこと。そのために、植樹祭などで先進的に植栽をしてはどうか、という考えも持ちました。

また、高島町や周辺市町では、ボランティア団体に植林や下刈りの指導を行っています。その他にも、高島町の地区ごとに小学6年生を対象として実施する「教育キャンプ」の実行委員を務めています。「子供たちはキャンプでの体験を大人になっても忘れない。このような体験から森林や木に親しんでもらいたい。今後は婚活キャンプなどを企画し、若い世代にも働きかけていきたい。」と熱く語っていました。

これからも林業の柱にとらわれない、置賜地域の指導者として、幅広い活躍が期待されます。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



林業技術者技術向上研修 〔森林利活用〕の開催について

○はじめに

山形県の豊かな森林資源を循環利用していくためには、川上から川下までが連携して消費者ニーズを創出し、ニーズに合った県産木材及び製材品の安定供給・流通を図ることが重要です。

今回は、ユーザー参加型の建築施工に取り組む女性建築士と、川上から川下が連携した家づくりに取り組む建築士を講師に、林業関係に従事する女性職員等を対象に、川上と川下が相互理解を深め、更なる森林資源の利活用へつなげる研修会を行いました。

○日時 12月8日(水)
午前10時30分～午後3時

○場所

【現地見学】 山形市内

【講演】 山形市総合スポーツセンター

○参加者

森林組合・林業事業体女性職員等
女性建築士、県職員 計26名

○講師

kokua home design

代表 石山多喜子 一級建築士

鈴木悦郎設計工房

代表 鈴木 悦郎 一級建築士

○研修内容

【現地見学】講師がデザイン・設計を行った山形市内の住宅2軒を見学しました。入居が済んでいるため外装のみの見学となりましたが、木材がふんだんに使われていることが一目でわかる作りとなりました。

【講演】現地見学した住宅の内装や設計のポイントについての説明と、講師のお二人からそれぞれのテーマで講演いただきました。

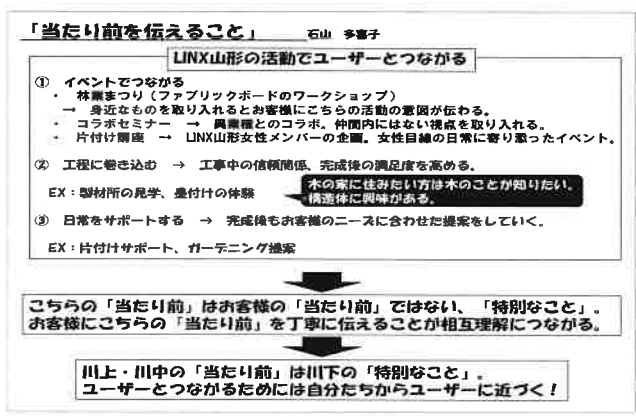


図1 石山建築士講演内容

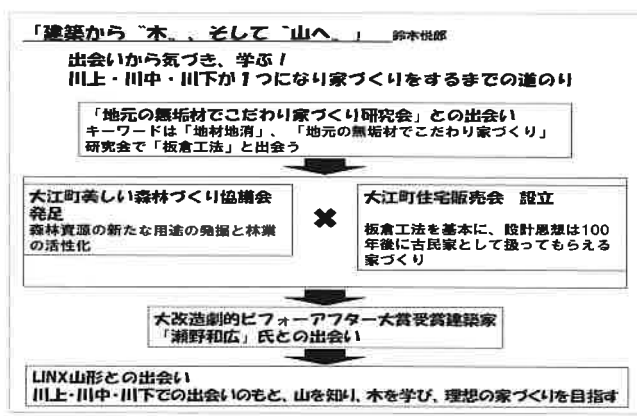


図2 鈴木建築士講演内容

石山建築士からは「当たり前を伝えること」と題し、『LINX山形』の取組を通じて気づいたユーザーとの関わり方や、川下から見た川上・川中の捉え方をお話しいただきました。(図1参照)

鈴木建築士からは「建築から「木」、そして「山」と題し、様々な出会いの中から気づき学んだことをもとに、地元木材を使い川上から川下まで連携した家づくりに取り組んできた経緯について説明いただきました。(図2参照)

講演後は参加者との意見交換を行います。川上の方からは「川上と川下が

お互いのことを知ることは重要だ」、「川上から川下までの人が集まる機会が増えれば、様々な視点での考えを身に付けられる」といった意見がありました。また、川下の方からは「木の良さを伝えていきたい」、「森林組合や林業事業体の見学をしてみたい」との意見が出されました。更なる森林資源の利活用を進めるうえで、業界を超えて集い対話をし、お互いを知ることの必要性を参加者も感じていました。



現地住宅見学の様子



午後の講演の様子



意見交換の様子

○おわりに
今後も研修での出会いをきっかけに、川上から川下が連携した木材の利活用の取組が進むことを期待しています。

〔森林研究研修センター〕

「主伐・再造林一貫作業に係る 現地検討会」の開催

◆はじめに

主伐・再造林を推進するには、再造林の低コスト化が必要であり、その手法の一つとして主伐後に機械地拵えとコンテナ苗植栽を続けて行う一貫作業が注目されています。

そこで、主伐・再造林一貫作業を普及するための検討会を開催しましたので紹介します。

◆現地検討会の概要

○日時

11月10日（水） 10時～12時

○場所

西川町大字入間地内（小山地区）
西川町交流センターあいべ

○参加者

林業事業体職員、県指導林業士、
山形森林管理署職員等 計19名

○現地状況

現地は、「花粉発生源対策促進事業」の実施箇所で、7月下旬から主伐を開始し9月中旬に搬出完了、9月下旬からプロセッサとグラブプル付バックホウの2台の伐倒機械を活用し機械地拵えを終了しています。

○内容

現地では、一貫作業を行った西村

山地方森林組合から作業状況等について説明の後、スギコンテナ苗の植栽研修と現地検討を行ないました。

場所を移しての意見交換では、県

森林研究研修センターが行っている低コスト再造林実証試験の結果について情報共有した後、村山地域での一貫作業の可能性等について検討しました。参加者からは「機械地拵えによる省力化とコンテナ苗植栽の容易さを実感した」「機械地拵えを経験したら人力地拵えには戻れない」など、一貫作業に好感的な意見が聞かれました。



コンテナ苗植栽研修



意見交換

◆おわりに

検討会終了後のアンケートでも、一貫作業は業務に役立ちそうだとの意見が多数寄せられました。今後も最新の林業技術を普及することにより、主伐・再造林を推進していきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

本物の樹に触れよう！ クリスマスツリープレゼント

◆はじめに

村山総合支庁と村山地域林業振興協議会では、幼少期から樹や木材に親しむ機会を提供する事業として今年度から子育て支援施設にクリスマスツリー（モミノキ）を贈呈する事業を始めました。子ども達が本物の樹に触れ、木製オーナメントの飾り付けを行うことで森林を大切にする心を育むことを目的としています。

◆今年度の実施状況

令和3年12月7日に山形市児童遊戯施設の「べにっこひろば」にて、コロナ禍の中、感染対策を行いなながらも、子ども達が楽しく活動できるよう心掛けながら開催しました。10組の親子とサンタに扮した我妻悟村山総合支庁産業経済部長がクリスマスツリーにオーナメントの飾り付けをしました。ツリーは高さ1.5mの鉢植えで、プランターカバーは西山杉で作りました。雪だるまやクマ



みんなでオーナメントの飾りつけ♪



サンタさんと記念撮影

などのオーナメントは県産材や松ぼっくりなどの自然素材でできています。また、参加した親子にはサンタさんから木製品のプレゼントがあり、「可愛い」などの声があり、大きなツリーに親子で楽しそうに飾り付けをしていました。

また、12月8日～14日までをクリスマスウィークとして、松ぼっくりなどを使ったオリジナルのオーナメント製作も行いました。

◆おわりに

今後は西村山、北村山地区の施設でも実施し、樹や木材に親しむ機会を提供していきたいと思えます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

治山や林道における ドローンの活用

◆ドローンとは何か、その利用は

ドローンとは、無人航空機を示す言葉であり、「人が搭乗しない航空機」のことを言います。英語では、「Unmanned aerial vehicle」で、略称が(UAV)とされます。ドローンによる上空からの撮影は、治山や林道での利用が大いに進んでいます。

◆災害の現場で活躍中

平成30年8月豪雨や令和2年7月豪雨の際、被災直後の現場状況の把握に利用しました。



林道から被災状況を撮影

被災現場は、土砂が泥流化しており、倒木や流木が多く、現地に踏み込むには2次被害の恐れが予想されました。このため、ドローンで上空から撮影することにしました。

写真は、令和2年7月の豪雨により林道猿羽根山富田線(舟形町)の沿線で発生した山腹崩壊の状況です。林道からの被災状況の把握が難しかったのですが、ドローンにより撮影した写真では、崩壊頭部の状況まで確認することができました。



ドローンで撮影した被災状況

ドローンは、現場を上空から俯瞰して把握することができるため、被害規模の把握や復旧工法を検討することに大変役立ちました。

◆林道の踏査に活躍中

林道では、計画線形や路線改良、大きな溪流での橋や暗渠などの林道施設の工法検討の資料として活用が期待されます。写真は、森林管理道最上奥の細道線(最上町)の開設区間をドローンにより撮影したものです。開設後の林道の状況や緑化の確認ができます。このため、林道の維持管理でも利用ができると思います。



最上奥の細道線開設後の状況

◆ドローンのデメリットは

ドローン自体の価格は、10万円以下で購入できる製品があり、テレビでは、ドローンで撮影された映像が

数多く見られるようになりました。

ドローンを飛ばすには、航空法の規制により、主に都市部では、飛行制限のため、許可が必要な場合がありますが、山間部は、許可の必要とする区域が少ないと考えられます。また、トイドローンと呼ばれる200グラム以下の機体では、規制の対象外となっています。操作は、スマートフォンやタブレットにソフトウェアをインストールして専用のコントローラーで操作しますので、ゲーム感覚で手軽に操作できます。

デメリットとして、トイドローンは軽量のため、風に影響を受けやすく、ドローンとの距離が離れると目で機体を追うことが難しくなります。また、雨の日に飛行は出来ません。カラスなどの鳥から攻撃を受ける場合もあります。バッテリーの容量から一回の飛行時間が数分と短いので、予備のバッテリーが必要となります。

◆今後の利用に向けて

ドローンは、様々な場面での利用が増えることが考えられます。このため、若手技術者に負けず新しい技術に対応できるよう、努めてまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

最上地域における伐採・再造林の取組み 伐採・造林事業者連携支援事業

◆はじめに(目的)

県では、林業事業者が森林所有者に皆伐・再造林を働きかける取組みや間伐等を推進する取組みを支援するため、伐採・造林事業者連携支援事業を昨年より新設しました。今回最上地域で事業を実施するので報告します。

◆事業メニュー

①森林経営計画等作成支援

既存の森林経営計画に、新たに皆伐・再造林・保育に関する施業内容を追加する経費を支援します。

②地上レーザレンタル経費支援

森林所有者への働きかけに必要な森林資源情報を正確に把握・分析した施業提案書を作成する際の有効ツールとなる地上レーザ機器のレンタル経費の一部を支援します。

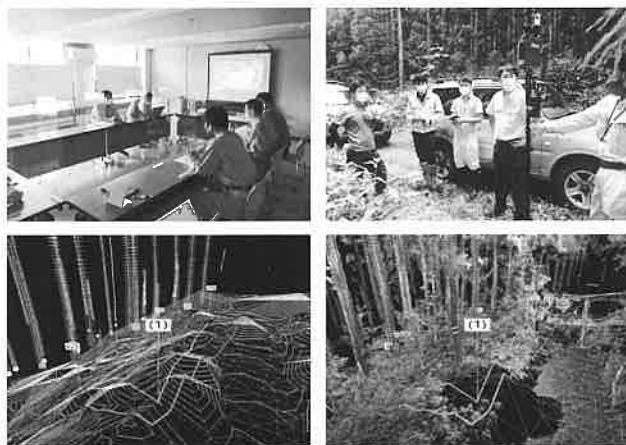
◆今年度の支援例

今年度は、最上町の林業事業体に地上レーザレンタル経費支援を行いました。7月には、地上レーザ計測機器を所有し今回貸し出しを行う企業の森林施業プランナーから機器の実演と、取得データを使った森林所

有者へ施業提案までの概要説明を受けました。今後は、林業事業者が分析したデータをもとに施業提案書を作成し、森林所有者に説明を行うこととしています。

◆普及啓発

施業提案書の作成の際には、林業事業者や市町村職員を対象に、研修会を実施し、普及啓発を行う予定です。



◆おわりに

木材需要が高まるなか、森林資源の循環利用を支える取組みは重要です。本事業を通じて、伐採・再造林の推進につなげてまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757

山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのきのの珍味

トンビマイタケ菌床
まいたけ櫛木

庭先でも栽培
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むぎたけ・かのか・くりたけ他

子供たちの緑化推進 〜緑の一步を置賜から〜

置賜林業推進協議会では、置賜地域の緑化・育樹運動の推進や森林保全の意識高揚を図るため、「置賜地区緑化運動・育樹運動標語及びポスター原画コンクール」を実施しましたので、審査結果を報告します。

当コンクールは平成17年度から実施しており、今年で17回目となります。今年度は、置賜地区の小中学生に加え、環境緑化への関心が広がることを期待して新たに高校生も対象とし、各学校の協力を得て夏休みの課題等として取り組んでいただきました。

応募数は、標語部門7校739点、ポスター原画部門小学生の部8校31点、中学生・高校生の部6校75点でした。



受賞作品展
(置賜総合支庁ロビー)

☆標語部門

最優秀賞

あなたの手 未来を守る 緑の手

米沢工業高等学校
1年 菅野 真子さん

優秀賞

このたねは 未来につながる

小国小学校
1年 伊藤 大和さん

優秀賞

ゼロカーボン はじめのいつぽは

飯豊第一小学校
2年 嶋貫 新大さん

入選

広げよう 未来を守る 豊かな緑

小国小学校
5年 佐貝 綾里紗さん

入選

木のために SDGs 心がけ

米沢南部小学校
4年 門坂 由利子さん

入選

作ろうよ 小さな木から 大きな未来

米沢市立第二中学校
1年 中野 結愛さん

入選

広げよう 緑であふれる 地球の未来

米沢工業高等学校
1年 佐藤 琉唯さん

☆ポスター原画部門

(小学生の部)

最優秀賞

「命」

長井小学校
4年 渡部 桜さん



優秀賞

「生きものいっぱい」

長井小学校
2年 清野 琉星さん



入選

「ピクトグラム植樹」

川西吉島小学校
4年 笹木 緩南さん



入選

「街の喧騒の中の木」

米沢南部小学校
4年 門坂 由利子さん



☆ポスター原画部門

(中学生・高校生の部)

最優秀賞

「小さな種から始まる大きな希望」

米沢第二中学校
2年 情野 逸平さん



優秀賞

「未来へ繋ぐ緑の芽」

白鷹中学校
1年 守谷 桜さん



入選

「地球に命を」

米沢第七中学校
3年 二宮 菜緒さん



入選

「作りかけの未来」

米沢第二中学校
3年 青木 陽葵さん



〔置賜総合支庁森林整備課〕

市民の集う海岸林 「万里の松原」と ともに二十年

万里の松原に親しむ会

◆はじめに

吹浦から湯野浜まで33kmに及ぶ庄内砂丘には、海からの強い潮風から住民を守るために先人たちが植林してきた海岸林が続いており、近年は津波被害に対する軽減の役割にも注目されています。酒田市はその中に位置しており、市街地の北端には市民が集う憩いの場にもなっている「万里の松原」の海岸林が広がり、ここを拠点として活動しているのが「万里の松原に親しむ会」です。

「万里の松原に親しむ会」は、平成13年に設立し、昨年で20年になる森林ボランティア団体であり、現在、個人会員100名、団体会員14団体が所属しています。結成20年を記念して、昨年11月7日には酒田市長はじめ多くの参加を得て盛大に祝賀会を開催しました。

◆会員の活動

会の運営は、4月の総会を

経て毎月の幹事会にて、月4

〜6回の具体的な活動内容を決めて活動しています。その合間にも、学校支援や個々の会員が会活動のやり残し作業などを続けています。柱となる活動は、ホームグラウンドである万里の松原の下刈りやツツジ、アジサイ、アペリアなどの剪定、及び付随する遊歩道の整備など、訪れる市民が気持ちよく過ごせるように手入れを続けています。

また、県や市が主催する海岸林整備ボランティア活動に

務めています。

◆児童生徒と海岸林体験の協働

本会の活動の中で、保育園・小中高等学校・大学の児童・生徒・学生の海岸林体験学習の支援は、次世代を担う若者に海岸林の歴史と守り育てていくことの大切さを伝えていく重要な活動と捉えています。

活動内容は、万里の松原地内の自然観察や大浜・北港後背地の海岸林の枝打ち、庄内海岸をバスで広範囲に移動して海岸林を幅広く学習するバス研修などがあります。この活動は、児童、生徒に話かけながら作業することから、会員が子ども達から元気をもらう活動にもなっています。

◆今後に向けて

本会は、「楽しく・生きがい・継続」をモットーに、万里の松原での整備活動を続けながら、東日本大震災被災地仙台荒浜での海岸林再生活動、子ども達との関わり方の工夫、「フォレストパル」の活用法

も積極的に参加し、市民や他団体との協働に

など柔軟な発想の活動も取り入れてきました。今後も年齢・体力・性差などを超えて活動が可能な会を目指します。

（万里の松原に親しむ会）



アペリアの剪定で活躍する女性会員



活動拠点の「フォレストパル」前にて



保育園児の万里の松原自然学習



20周年祝賀会



中学生の枝打ち体験支援を終えて

地域住民の安全・安心を確保 鶴岡市小国字西山地内

西山緊急予防治山工事が完成

◆施工地の概要

当地区は鶴岡市南部の温海地域の山間部に位置し、庄内小国川沿いを通る県道温海川木野俣大岩川線沿いの急峻な地形の箇所、土砂崩壊防備保安林に指定されています。

令和2年2月17日の降雨により、山腹斜面の崩壊が発生しました。規模は幅10m、長さ35m、直下の県道に崩壊土砂が到達する被害となり、県道は一時全面通行止めの通行規制が行われました。



崩壊状況

崩壊した斜面は、表土の流出により巨石が地表面に露出しており、今後の降雨で更なる山腹崩壊や落石が発生する危険性が極めて高く、緊急に対策が必要なことから、令和2年度より治山事業を実施しました。

◆工事概要

事業名…緊急予防治山事業
 施工地…鶴岡市小国字西山
 事業年度…令和2年度、令和3年度
 事業費…82,484千円
 (測量設計、工事費)

主な工種…吹付法砕工 790.4㎡
 ロープ掛工 200.5㎡



工事完成

地元住民等から円滑な事業実行に協力をいただき、令和3年9月に竣工することができました。
 今後も治山事業により地域住民の安全・安心の確保に向けて努めてまいります。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

森林やまがた 一九七号

令和四年一月一日発行(隔月発行)

山形県農林水産部

監修 山形県農林水産部

定価 二八八円



「木を未来へつなぎ 未来を木でつなぐ」

県産材JAS《AD・KD》製品自信あります。ご用命承ります。

阿部製材所

検索



株式会社

阿部製材所

本社(酒田)/北港工場/やまがた中央木材市場
 JAS認定工場: 本社工場製材/北港工場乾燥

PELLET
 Watarai

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!
 総合電設業、木質燃料製造販売、一般排気物・産業廃棄物リサイクル事業



詳しくは
 こちらから



代表取締役社長 後平順二

本社: 山形県鶴岡市下山添字一里塚36
 ☎0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345
 田代工場: 鶴岡市田代字広瀬16-2
 ☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786
 庄内工場: 東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4